ISSN 0388-5569
VOL.4 NO.1
(通巻10号)
1983.2

Library News

山口大学附属図書館報

目次

図書館随想 …… 梶井　正 …… 1
雑　感 …… 中島真由美 …… 2
≪資料紹介≫
ENGLISH EXPERIENCE …… 4
お知らせ …… 3
本館備付自然科学系外国雑誌について …… 4
日　誌 …… 4

図書館随想

梶井　正

30余年にわたって図書館を利用してきた。第二次大戦直後の冬のオーバーを着ていなければ凍死しそうな図書館，それと対照的に暖房の効いた米中央情報局の運営する図書館に通った昔が思い出される。私は図書館の利用率は多い方であると思う。在米中に図書館の利用状況の調査があり，正直に回答したら怪んで電話で再調査されたことがある。利用率の多いのは本を持っていないせいで，何も自慢にはならない。

他大学を訪れるときは時間を割いて図書館を訪れることにしている。最近新設される医科大学，医学部の図書館は立派で欧米の一流大学のそれと比較しても遜色がない。殊に郊外に新設された医大などは図書館の窓から見る景色も申し分ないものが多い。窓外の緑を眺めて読書の疲れを癒すのは良いものである。スイスに住んでいた頃，時々訪問客を案内した公園内のレストランが高価な割に味が悪く，土地の人達の愛用する街中のそれが安価で味が良いので土地の人にその理由を尋ねたら窓から見える景色の差だとのことだった。そう言えば我が国でも公園に隣接してホテルが建ち，もっぱら借景して法外な料金を取っているようである。

さて我が医学部分館を見ると現状はお世辞にも立派とは言いかねる。近く新築の計画もあるようだが，その暁には窓外の景色はどうだろうか。満目の緑と願いたいところだが，立地条件を考えると無理だろう。しかし目に入るものは地面を掘りかえすクレーンだけなどということにならないように願いたいものだ。

私がいたアメリカの大学医学部では書庫のあちこちに机を置き，学生が勉強できるようにしてあった。課目ごとに試験があり，一課目でも落すと放校だから学生にとっては金曜が真剣勝負で，その前夜は図書館で遅くまで机に向うことになる。図書館は終夜開放していた。机は書架の陰に隠れたように置かれてあり，そのせいか例外なく落書があった。旧制高校の便所の落書に似ている。その多くは試験に対する抗議と言うよりは悲鳴に近かった。「Doctor factory に抗議する」というのもあった。もっと気の効いた文句もあったが忘れてしまった。我が国の医学部の図書館でも同じように書庫に机を配置したのを見たことがあるが，学生の利用度は低いように見えた。むしろ大部屋式にして大きな机を置き，数人が集れるようにしたものが利用度が多いように思われる。学生の気質の違いか，試験制度の違いか，下宿の環境の違いか，人口密度の違いか，わからない。

私が利用した図書館で気に入ったのはジュネーブのWHO本部のそれだった。この図書館はジュネーブ郊外にあり景色も良く，全体にゆったりしており，利用者も少なく，申し分なかった。読みかけの本

を机上の指定の位置に置くとそのままにしてあり，翌日行くとすぐ仕事を継続できた。欠点としては観光コースに入っているものとみえてガイドに引率された観光団が屢々出現し，ジロジロ眺めまわすことだった。観光団は何処も同じように日本人が多く，同国人らしいのが座っていると余計好奇心を刺戟されるらしく，パンダよろしく念入りに眺めてゆくのだった。もう一つの問題は駐車場だった。地下に職員用の立派なのがあるのだが有料なので誰も利用せず，地上の無料駐車場は何時も満員で困ったものだ。車止めにはコンクリートブロックの代りに日本政府の寄附した立派な庭石が置かれてあった。値段を知ったらブロック代りには使わないと思うのだが。

また我が国の医学部の図書館に話を戻すと学生に人気のあるのは新聞閲覧室のようだ。新聞にひかれて図書館にやってきた学生が，ついでに本も読むのか，新聞だけに目を通して帰るのか，調査したらおもしろいだろう。これにひきかえ人気のないのは語学用のテープを揃えたランゲージラボで，たいていの図書館にあるが，利用しているのはあまり見たことがない。図書館側としては一考を要する問題だと思う。

（医学部　教授）

雑　　感

中　島　真由美

この1年間毎週4回私は夜間開館の図書館のカウンターで業務に従事して来た。私は昔から図書館が好きだった。図書館という言葉も好きだった。木造の少し湿り気のあるような室。かといって図書館でいつも読書していたわけでなく，図書館の中で本に囲まれて考え事をするのが好きだった。

しかし高校に入ってみると，図書館は近代的な建物で，椅子もスチール製，少し淋しい気がした。高校時代の1年間だけ，私は図書係をする機会があった。小学校の時からやってみたかったけれども，なかなかその機会がめぐってこなかったので，小躍りするほど嬉しかったことを憶えている。それが高校では受験勉強以外で図書館を利用する人は少なく，貸出の仕事もひとりいれば十分という有様だった。がらんとした図書館も夏休みになれば受験勉強の生徒で満員になる。私はその光景を見るのは好きでなかった。図書館にある蔵書には見向きもせずに，参考書片手に黙々と勉強している。大学に入ればそんな事もないだろうと思っていたのだが，時々来る図書館には学生はちらほらという感じで，私の淡い期待も裏切られてしまった。今は夜間開館時にカウンターにすわっているため試験時の利用者の増え方がよくわかる。大学も結局，高校とあまり変わらなかったのである。

私が入学した当初は，夜間開館は8時まで行われていなかったと記憶している。最近では返却ポストも設置され，年々便宜がはかられている。だがまだ不便な所もある。例えば書庫について言えば，書庫を閲覧したいと思い4時40分ごろに講義が終わってから行っても，5時前には閉まり，ゆっくり閲覧できない。管理上の問題があるのかもしれないが，せめて土曜日の午後2時間だけでも利用できれば，ずっと利用者が増えると思う。現に土曜日の午後，書庫の閲覧のために図書館に来る人が多い。専門課程に移ると書庫の蔵書を使う機会が増えてくる。それが時間の制約を受けて十分に活用できないのは残念である。しかし大半の人は開架閲覧室を利用するのみに止まり，書庫或いはその他の蔵書や設備を利用する人は少ないようだ。雑誌コーナー・レファレンスサービス・視聴覚設備などを利用する事によって，図書館の多機能性を十分認識できるであろうが，まだまだ図書館のそういった点が生かされていないように思う。

学校以外の図書館は，図書館によって規模・設備・蔵書の量などまちまちである。一つの市には市民の要求を満足しうる図書館が必要であると思うが，実際にはそんなに整備されてない。それに比べて大学の図書館というものは，蔵書の量だけでもはるかに優れている。もちろんこの二つの図書館は利用者や目的が些か異なるが。しかし私たち学生は，一般の社会人にくらべて大きな図書館を利用できることは確かだ。

今年の3月か4月には図書館の増設工事が始められるという。残念ながら私は新しい図書館を利用することができない。現図書館よりあらゆる点で充実した図書館に変わるであろう。それとともに利用者も増えて，十二分に図書館が活用されることを期待している。

（人文学部　専攻科生）

≪資料紹介≫

ENGLISH EXPERIENCE

Books printed in England before 1640.

— ルネッサンス期英国百科叢書 —

（昭和57年度購入大型資料）

この叢書は，15世紀に始まり，エリザベス朝末期を頂点にして，クロムウエルによるピューリタン革命の起った1642年をもって，一応終ったとされる英国ルネッサンス期に出版された資料で，近世初期の英国文化研究の基礎資料とされています。しかし，この時期の文献の多くは，大英博物館，オックスフォードのボドリー図書館，ケンブリッジの中央図書館などに所蔵されております。

この≪English Experience≫複刻シリーズは「英国近世初期刊本簡略書名目録」（A Short・title Catalogue of Book printed in England, Scotland and Ireland, and of English Books printed abroad, 1475－1640. 1926）約25,000 冊から1,500 冊程度を厳選しファクシミリ版で，現在 964 冊刊行されており，最終的には1980年代末までに完結される予定です。また，ファクシミリ版であることは，テクスト校訂，綴字，発音などの英語学的研究資料としての価値を一層高めています。

ルネッサンス期の文化人は，一芸一学にこもる専門家ではなく，多少とも諸学芸に通ずる博識家が多く，この叢書は，言語，文学のほか歴史，法律，政治，宗教，哲学，天文学，錬金術，医学，農学さらに市民生活全般に関する分野に及んでおり百科全書的特色をもっています。

≪お知らせ≫

図書館業務の電算化について

本誌Vol. 3 No. 1 (1982. 2) の「図書館業務の電算化計画について」で述べました以後の電算化の進捗状況についてここで触れておきます。

閲覧業務の電算化は昨年 4 月に，この時点での利用者登録が終り，一般貸出，返却，罰則解除処理，貸出についての情報，図書館利用証の発行と再発行等のプログラムが稼動しています。

既報の 7 つのサブシステム（要求管理，予算管理，予約管理，検収管理，図書管理，閲覧管理，利用者管理の各サブシステム）のうち図書，雑誌の貸出，返却及びこれに伴なう情報の管理システムである閲覧管理サブシステム，そして学生，教職員の所属，身分，学年，氏名及び現住所等の情報を保守管理する利用者管理サブシステムの開発は一応区切りがつきましたので残りの 5 つのサブシステムについて現開発中，または検討中です。次に開発中のものについて簡単に触れておきます。

図書，雑誌等の購入のための予約，納品状況の管理，購入契約時での書誌的データ等の登録や保守管理する予約管理サブシステム，書店等から納入された図書，雑誌等について受入番号，書名，著者名等の書誌的な情報等の保守管理を行う検収管理サブシステム，そして各研究室等からの購入要求や予算について総合的に管理を行い，また図書の受入要求についての情報を登録し保守管理を行う要求管理サブシステムについて，特に雑誌については「雑誌管理サブシステム基本設計書（案）」ができ，これの内容検討がほぼ終りました。プログラムの開発日程についても略詰めが終り，これに含まれるプログラムの一部を除いて本年 4 月稼動に向けて作業を進めています。図書については「図書管理システム基本設計書（案）－発注から検収まで－」ができ，これの検討に入っています。また雑誌管理と関連する項目について両者の調整を行っています。

今後の開発，検討の予定は次のとおりです。閲覧管理サブシステム，利用者管理サブシステムについては，残っている利用統計を含む各種の統計の作成のためのプログラムの開発，督促状の出力，図書の問い合わせ，研究室貸出簿の出力等のためのプログラムの開発は58年度中に終えるようにしています。予約管理，検収管理，要求管理の各サブシステムで，雑誌管理については本年 4 月稼動を予定しているプログラムを除いて，また図書管理は上記「図書管理システム基本設計書（案）」の詳細について，なお検討を続けます。検収管理サブシステムの段階までに入力された諸種のデータを利用しやすくするため，データの点検，付加等を行う図書管理サブシステムは一部雑誌管理，図書管理に入っているものを除き鋭意完成すべく検討を行っています。

本館備付自然科学系外国雑誌について

昭和52年度から外国雑誌購入費が文部省から配付されるようになり，本館では，この予算で購入する自然科学系の外国雑誌を集中管理して共同利用することになりました。その後予算も増加して，昭和57年度現在138タイトルを購入するに至っています。これ等の雑誌は共同利用ということで，当年分の雑誌は館内のみの利用ということになっておりますので，館内での利用がどのような状況になっているかはっきいたしません。昭和57年4～12月の間の文献複写による利用については次のようになっています。

学　内		
	私　費（主として学生）	487　件
	校　費	101　件
	コピー貸出し（57.6～12）	214　件
	計	802　件
学　外		120　件
合　計		922　件
1日平均		4.5件

上記の期間に参考係で扱った複写件数は，1日平均16.4件ですからそのうちこれ等の雑誌について1日平均4.5件の利用件数があるということは，かなり有効に利用されているように思われます。また，上記のように利用件数の半分以上が学生の利用ということですから，学生にとっては非常に便利であり，その利用も定着してきたといえるのではないでしょうか。さらに，学外からの依頼についても国立大学の場合は，受付けた日にすぐコピーして送ることができますので，依頼者の手許に届くのも他の場合に比べてかなり早いものと推測しています。こうした雑誌の共同利用は幾らかの問題点をかかえながら発足後約5年を経過しました。前記のような利用状況から利用者の理解もある程度得られるようになったのではないかと思っています。

ところで，ただ6年目に当る今年度は，文部省配付の外国雑誌購入費が50％減となったため，この制度に新たな問題が生じました。去る12月2日の本館図書委員会で購入費について協議され，今年度は負担率を変更して一応今の制度を続けることになりましたが，来年度以降については改めて協議されることになります。

日　誌

10月6日（水）～8日（金）　中国四国地区大学図書館研究集会（於鳥取・白兎会館）
10月8日（金）　中国山東省大学視察団来館
10月13日（水）　工学部分館図書委員会
10月14日（木）　電算化のための日本電気㈱との定例会
10月20日（水）　工学部分館図書委員会
10月27日（水）　電算化のための日本電気㈱との定例会
10月28日（木）～29日（金）　第53回日本医学図書館協会総会，当番館・関西医科大学附属図書館（於京都ホテル）
11月6日（土）～7日（日）　図書館職員親睦レクリェーション・三段峡（広島）
11月11日（木）　電算化のための日本電気㈱との定例会
11月18日（木）～19日（金）　第9回国立大学図書館協議会中国四国地区協議会及び同係長会（於山口・共済苑）
11月25日（木）　第39回附属図書館運営委員会
12月2日（木）　第9回本館図書委員会
12月3日（金）　電算化のための日本電気㈱との定例会
1月13日（土）　電算化のための日本電気㈱との定例会
1月26日（水）～27日（木）　国立大学附属図書館事務部長会議（於神戸大学）

編集・発行　山口大学附属図書館　〒753　山口市大字吉田1677－1　電話（0839）22－6111（内線 788）